

2022 年 8 月 21 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒115 番 (SK 姉)

『誰が告げ得るや』

聖書⇒ヨシュア記 24:14~17、22~24 節 (MM 姉)

『あなたたちはだから、主を畏れ、真心を込め真実をもって彼に仕え、あなたたちの先祖が川の向こう側やエジプトで仕えていた神々を除き去って、主に仕えなさい。もし主に仕えたくないというならば、川の向こう側にいたあなたたちの先祖が仕えていた神々でも、あるいは今、あなたたちが住んでいる土地のアモリ人の神々でも、仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい。ただし、わたしとわたしの家は主に仕えます。』民は答えた。「主を捨てて、ほかの神々に仕えることなど、するはずがありません。わたしたちの神、主は、わたしたちとわたしたちの先祖を、奴隷にされていたエジプトの国から導き上り、わたしたちの目の前で数々の大きな奇跡を行い、わたしたちの行く先々で、またわたしたちが通って来たすべての民の中で、わたしたちを守ってくださった方です。

ヨシュアは民に言った。「あなたたちが主を選び、主に仕えるということの証人はあなたたち自身である。」彼らが、「そのとおり、わたしたちが証人です」と答えると、「それではあなたたちのもとにある外国の神々を取り除き、イスラエルの神、主に心を傾けなさい」と勧めた。民はヨシュアに答えた。「わたしたちの神、主にわたしたちは仕え、その声に聞き従います。』

礼拝讃美歌⇒513 番

『新しき地に』

聖書⇒マルコによる福音書 15:37~38 節 (NH 兄)

『しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。』

聖書⇒出エジプト記 26:31~33 節

『青、紫、緋色の毛糸、および亜麻のより糸を使って、意匠家の描いたケルビムの模様の垂れ幕を作り、金箔で覆ったアカシヤ材の四本の柱の鉤に掛けなさい。鉤は金、四本の柱の台座は銀で作る。その垂れ幕は留め金の下に掛け、その垂れ幕の奥に掟の箱を置く。この垂れ幕はあなたたちに対して聖所と至聖所とを分けるものとなる。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 10:19~20 節

『それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。』

礼拝讃美歌⇒156 番(旧 169 番)

『幕は裂けたれば』

聖書⇒詩編 9:2~3、11 節 (SK 兄)

『わたしは心を尽くして主に感謝をささげ／驚くべき御業をすべて語り伝えよう。
いと高き神よ、わたしは喜び、誇り／御名をほめ歌おう。』

主よ、御名を知る人はあなたに依り頼む。あなたを尋ね求める人は見捨てられることがない。』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節 (EK 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒149 番 (旧 220 番)

『主イエスを覚えんため』

《建徳》

聖書⇒詩編 121 編 (TM 兄)

『【都に上る歌。】目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。

わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから。

どうか、主があなたを助けて／足がよろめかないようにし／まどろむことなく見守ってくださるように。

見よ、イスラエルを見守る方は／まどろむことなく、眠ることもない。

主はあなたを見守る方／あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。

昼、太陽はあなたを撃つことがなく／夜、月もあなたを撃つことがない。

主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってくださるように。

あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。』

礼拝讃美歌⇒313 番（旧 84 番）（MK 姉）

『主に頼る者は』

《建徳要旨》